

会 報

平成 26 年 8 月 2 日 発行

「2020 年東京オリンピックと復興五輪」

中村祐司 (宇都宮大学国際学部・大学院国際学研究科教授)

栃木県の地方国立大学に赴任して以来、早くも 22 年目を迎えようとしている。この間、学部や大学院で担当してきた科目は行政学、地方自治、比較政策研究といった類のもので、「スポーツ」の名が付くものは一つもない。研究室の看板は「行政学」となっているし、たとえば、これまで指導してきた学部生や院生の中で、研究テーマにスポーツを取り上げた者はほとんどいないのが実情である。

それでも巻頭言を書かせてもらい、肩身の狭い思いがないわけではないが、以下、スポーツ政策研究を放棄せずに、他の領域との関係性において位置づけようと曲がりなりにも悪戦苦闘してきた者として、目下の、そしておそらく今後 6 年間の最大の関心事について述べたい。

昨年 (2013 年) 9 月の I O C 総会での 2020 年東京オリンピック開催決定は、その決まり方において、まさに晴天の霹靂(へきれき)であった。というのは招致過程のキセル段階(最初と終わりの方という意味)において、「復興五輪」がにわかにくローズアップされ、あたかもそのことが招致決定の切り札となった様相を呈したからである。

総会プレゼンにおいて提示された、震災復興

に貢献するスポーツの意義の強調や、放射線の海洋への流出をめぐる首相の「コントロール」発言などが、東京決定にお墨付きを与えたのは間違いない。このことにより、スポーツ政策研究と震災復興・復興政策研究とを結びつける千載一遇の機会が与えられたといえるのではないだろうか。

2020 年東京オリンピックをめぐる研究において、震災復興におけるスポーツ貢献の研究が不可欠となったからである。施設整備、交通アクセス、防災、関係者間の調整・協力、財源の調達と拠出先とのバランスなど、開催成功に向けた政策課題は山積している。しかし、最も重要なのは復興五輪を絵に描いた餅で終わらせずに、その実践を積み重ねていくことではないだろうか。自国での五輪開催という歴史の節目に遭遇できたことを喜びつつ、今後 6 年間は、復興五輪のあり方についてとことん追求し、その理念の実現にしつこくこだわり続けていきたい。

学会のスタンスとしては、政府、東京都、スポーツ団体、スポンサー・関連企業などとは一線を画しつつも、これらの諸セクターとの協働の接点を探ることも必要になろう。そして、傍観者で終わらずに、当事者意識を持ち続けたい。

研究にはもちろん論拠がなければいけない。しかし、とくに若い世代のメンバーには、小さく無難にまとまった研究ではなく、破天荒で型破りな発想を期待したい。そのエネルギーこそが、スポーツ政策研究の新たな地平を広げるに違いない。

第 23 回日本体育・スポーツ政策学会報告 学会大会を終えて

大会実行委員長 菊幸一（筑波大学）

平成 25 年 12 月 15 日に筑波大学東京キャンパス文京校舎で開催された第 23 回学会大会には、会員、非会員、基調講演・シンポジウム関係者、そして大会スタッフ等々の関係者を含め、総勢 100 名を超える参加者がありました。東京都区内で、駅から徒歩 3 分という地の利も幸いしていたかとは思いますが、2020 年の東京オリンピック・パラリンピック大会招致決定後の学会大会ということもあり、スポーツ政策に関する関心の高まりもそれなりにあったのではないかと考えています。スポーツ研究は、これまでスポーツ現象の社会的な広がりや深まりにもかかわらず、相変わらず研究者の身体は、その出自から体育的なパラダイムに止まっていたのではないかと思われま。研究史的には、ようやく社会の「なかの」スポーツが政治との関係から「政策」的な視点でとらえられるパラダイムの必要性と、そのエートス化（あるいは常識化）が求められるようになったのではないのでしょうか。

その意味では、今回の基調講演やシンポジウムのテーマが、トピカルなオリンピック関連の政策をあえて取り上げず、地方自治体の政策過

程や地方スポーツ政策に焦点化されたことは、むしろ本学会のアカデミックなスタンスを表わすものであったと考えます。ポスト 2020 のスポーツビジョンを踏まえて、地域生活とスポーツ政策の接点を地道に掘り起こしていく研究視点が、今こそ重要だと思われるからです。また、全 17 演題を数える一般発表も、これまでの体育・スポーツ政策の先行研究を踏まえながら、とくに若手の研究者や院生の新鮮な問題意識が学会に新たな刺激を与えていたように思いました。

最後に、多くの参加者とスタッフによって本学会大会が無事、終了できましたことを改めて感謝申し上げます。また、学会大会の実質的な企画は副実行委員長の齋藤健司氏、松田恵示氏によるものであり、運営は大会事務局の高橋義雄氏、成瀬和弥氏ら多くのスタッフの尽力によるものです。次年度学会大会は、東京学芸大学の予定です。本学会大会のレガシーをしっかりとバトンタッチしていきたいと思ひます。

第 23 回学会大会参加報告

松村利子（同志社大学総合政策科学研究科）

同志社大学総合政策科学研究科博士前期課程 1 年の松村利子と申します。12 月 15 日に、筑波大学東京キャンパスで開催されました、日本体育・スポーツ政策学会第 23 回大会に参加させて頂きました。私は学部生時に、前回の第 22 回大会に参加させて頂きましたが、今回の学会大会は、一般研究発表をさせて頂くということで、昨年度とは違った緊張感で学会に参加させて頂きました。

私は、「人間形成政策における運動部活動の課題と展望」という題目で、発表をさせて頂きま

した。まず、発表という貴重な機会を与えて頂いたことに、感謝致します。本学会は、スポーツ政策と、私の研究対象である運動部活動について、専門的に研究しておられる先生方が多く参加されておられますので、非常に緊張しながらの発表でした。発表をさせて頂いたこと自体も勿論のこと、研究について意見を頂戴することもでき、今後の研究に向け、非常に良い経験をさせて頂きました。他の先生方の一般研究発表では、先生方の研究に対する熱意と、いかに研究に励んでおられるのかということがよくわかり、自分の勉強不足を感じ、また多くの刺激を受けました。一般研究発表の公聴を通して、今後益々研究に打ち込む必要性を感じました。

基調講演とシンポジウムでは、自治体と地方スポーツ政策について、先生方から現状や課題、今後の展望等をお話し頂きましたが、スポーツ振興は、私の研究テーマである運動部活動と切っても切れない関係であるため、興味深く聞かせて頂きました。

懇親会では、多くの先生方や学生の方々とお話しをさせて頂く機会を得られました。研究の内容や課題、方向性、理想についての議論と、情報交換をさせて頂くことができ、懇親会も非常に有意義な時間を過ごすことができました。

最後になりましたが、このような機会を与えてくださった、本学会大会の準備・運営をして頂きました先生方に感謝申し上げます。

日本体育・スポーツ政策学会第 23 回大会に参加して

磯部耕介（筑波大学大学院）

この度、筑波大学東京キャンパスで開催された日本体育・スポーツ政策学会第 23 回大会に参加させていただきました。

今回の学会大会の印象ですが、実に多様な分野の研究が行われているということに率直に感じました。普段自分の所属しているゼミでは触れることのできない分野の研究を拝聴することができ、大変参考になりました。

まず、一般発表ですが、国内におけるスポーツ政策だけでなく、スポーツ政策に関する外国研究や学校体育の研究など様々な視点から研究がなされており、スポーツ政策の多様さを伺うことができました。研究発表では活発な意見のやりとりがなされており、先生方の研究への熱意を感じるとともに、私自身も見習わなければならないことが多くあると感じました。

また、学習院大学の伊藤修一郎先生による基調講演では、自治体政策過程研究の視座と枠組みについて貴重なお話を拝聴することができました。特に景観政策の展開については、ある一つの自治体の条例が他の自治体に波及し、法成立に至る過程は興味深いものでした。このような政策の展開事例は、地方スポーツ政策の方向性の指針として非常に重要であると感じました。

さらに、シンポジウムでは、地方スポーツ政策の波及と革新というテーマに基づいて、この分野に深く関わっていらっしゃる先生方の貴重なお話を拝聴でき、大変勉強になりました。特に、普段報道等では耳にすることのできない現場の実態というものを伺うことができ、日本の地方スポーツ政策は解決しなければならない課題を多く抱えているということを再認識しまし

た。

本学会大会は、自分自身の勉強不足を感じる場であったとともに、今後の研究活動へ自分を奮い立たせてくれる貴重な機会となりました。この大会で得た経験を活かし、今後の研究活動に取り組んでいきたいと思えます。最後になりましたが、本学会大会の準備・運営をしていた

いただきました大会実行委員長の菊幸一先生をはじめ、諸先生方に感謝申し上げます。

第 24 回学会大会案内

1. 会 期：平成 26 年 12 月 7 日（日）
2. 会 場：東京学芸大学 北講義棟 401 教室ほか

〔住所〕〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1

〔アクセス〕JR 武蔵小金井駅よりバス約 10 分
／JR 国分寺駅より徒歩約 18 分

3. 主 催：日本体育・スポーツ政策学会
4. 共 催：東京学芸大学
5. 後 援：文部科学省（申請中）
6. 日 程：

9:00 ～ 受付

9:30 ～ 一般研究発表

13:00 ～ 14:00 昼食

(13:00～14:00 理事会)

14:00 ～ 14:30 総会

14:30 ～ 15:30 基調講演 「未定」

15:45 ～ 18:15 シンポジウム

「スポーツ団体の自治と自由—スポーツ庁の創設における行政の変革期を迎えて-(仮)」

シンポジスト：未定

18:15 ～ 18:20 閉会

18:30 ～ 20:30 懇親会

7. 参加申し込み：

- (1) 締切期日 平成 26 年 10 月 30 日（木）
- (2) 参加費 会員 3000 円 非会員 5000 円
懇親会 5,000 円（学生 3,000 円）
シンポジウム(一般公開)への参加者 1000 円（資料代）

(3) 申込方法

上記期日までに下記の必要情報を記載し、大会実行委員会申込受付担当 (sportseisaku24gakkai@gmail.com) に申込んで下さい。最寄りの郵便局へ大会参加費及び懇親会費を納入してください。なお、参加を取り消した場合には、大会参加費及び懇親会費は返金いたしません。

※Email に記載する情報

氏名 フリガナ 所属機関 住所 電話番号 一般研究発表申込（発表する（演者）／発表する（共同研究者）／発表しない） 演題（※一般研究発表の演者の方のみ） キーワード（※一般研究発表の演者の方のみ 2～5 つ） 懇親会（参加する／参加しない）

8. 一般研究発表の申し込み：

体育・スポーツ政策（行政）に関連した研究であって、未発表のものに限ります。

(1) 申込資格 本学会会員で、平成 26 年度会費および第 24 回大会参加費を納入した方に限ります（演者および共同研究者ともこの条件を満たすこと）。

(2) 申込

①研究発表申込

大会実行委員会申込受付担当
sportseisaku24gakkai@gmail.com に申込

②大会号原稿

研究発表者は、研究の概要を大会号原稿作成要領に従って作成し、締切期日までに大会実行委員会申込受付担当へ送付してください。

(3) 締切期日

①研究発表申込期限

平成 26 年 10 月 30 日（木）

②大会号原稿提出期限

平成 26 年 11 月 15 日（土）

(4) 発表方法 一般研究発表の演者の登壇は 1 人 1 回に限ります。発表方法はすべて口頭発表とします。発表時間は 1 人 15 分、質疑応答 5 分とします。発表では、ビデオ、スライド、OHP、パワーポイントは使用可能です。

(5) 発表取消 発表取消は、平成 26 年 11 月 15 日（土）までに連絡してください。期限以降の変更は認められません。

9. 大会号の配布：

大会号は、当日の参加者に配布いたします。

10. その他

・昼食は各自でご準備下さい。会場の周辺に飲食店があります。

・宿泊の斡旋はいたしておりません。各自でご手配下さい。

11. 大会組織：

大会実行委員長

松田恵示（東京学芸大学）（委員長）

大会副実行委員長

齋藤健司（筑波大学）（学会担当理事・大会企画）

鈴木 聡（東京学芸大学）（学会事務局関連）
大会事務局

成瀬和弥（筑波大学）（会計）

酒本絵梨子（自由学園）（プログラム・広報）

眞鍋隆祐（彰栄保育福祉専門学校）（会場・懇親会）

大会実行委員会 問い合わせ・連絡先住所

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1

東京学芸大学 松田恵示研究室 気付

電話 042-329-7643

E-Mail : keiji@u-gakugei.ac.jp

大会参加及び研究発表申込受付

担当 酒本絵梨子

sportseisaku24gakkai@gmail.com

《平成 25.26 年度理事会報告》

【平成 25 年度・第 3 回理事会】

①平成 25 年 12 月 15 日（月）13:10～14:00

②筑波大学 東京キャンパス

③〔審議事項〕

(1)第 2 回理事会議事録（案）の確認

(2)平成 25 年度総会について

(3)平成 25 年度学会大会について

(4)学会賞、奨励賞について

(5)自治体会員について

(6)定期購読について

(7)新規入会・退会について

(8)その他

【平成 25 年度・第 4 回理事会】

①平成 25 年 3 月 3 日（水）10:30～12:00

②筑波大学 東京キャンパス

③〔審議事項〕

- (1)第3回理事会議事録(案)の確認
- (2)平成25年度総会議事録(案)の確認
- (3)平成25年度学会大会について
- (4)学会大会の決算について
- (5)次年度学会大会時期とスポーツ庁設置に関する学会の対応についての進捗状況
- (6)日本体育スポーツ経営学会からの共同研究集会開催への提案
- (7)新入会員の承認

〔報告事項〕

- (8)会員数の報告
- (9)会費納入状況
- (10)会報発行状況
- (11)学会誌の発行状況
- (12)関西学会セミナーについて
- (13)会長選挙実施に係る準備について

【平成26年度・第1回理事会】

①平成26年6月14日(土) 13:30~15:00

②筑波大学 東京キャンパス

③〔審議事項〕

- (1)第4回理事会議事録(案)の確認
- (2)理事の役割分担(案)の確認
- (3)長期会費未納会員の処遇
- (4)新入会・退会者の承認
- (5)入会手続き変更と購読会員申込書(案)
- (6)平成26年度学会大会について
- (7)平成25年度決算案について

〔報告事項〕

- (1)研究誌発行について
- (2)会報の発行について
- (3)セミナーの開催について
- (4)会費納入状況について

《学会誌の原稿募集について》

学会誌「体育・スポーツ政策研究」の原稿を募集しております。下記編集委員会までご送付ください。

〒276-0013

千葉県八千代市保品字中台谷 2014

東京成徳大学 出雲輝彦研究室

「体育・スポーツ政策研究」編集委員会事務局

《平成26年度新入会員》

〔正会員〕

- ・池川哲史(神戸親和女子大学)
 - ・佐々木 朋子(桐蔭横浜大学)
- 〔学生会員〕
- ・佐々木里菜(神戸大学大学院)
 - ・荒尾 裕子(筑波大学大学院)
 - ・岩月 基洋(慶應義塾大学大学院)
 - ・宇都宮 大地(鹿屋体育大学大学院)
 - ・小谷 康敬(東京学芸大学大学院)
 - ・原田 昇(慶應義塾大学大学院)
 - ・本田 哲也(東京学芸大学)
 - ・松村 利子(同志社大学大学院)
 - ・三枝 巧(筑波大学大学院)
 - ・宮澤 武(松本大学大学院)
 - ・村井 友樹(筑波大学大学院)

〔購読会員〕

- ・筑波大学(三省堂書店 北東京営業所)

《会員数》

平成26年7月31日現在の会員数は正会員139名 学生会員44名 購読会員1団体です。

入会を希望する方がございましたら、入会申し込み案内をお送りいたしますので、事務局までご連絡ください。

《事務局便り》

◇住所変更などはお早めに事務局へ

ご異動等によるご住所・所属・連絡先等の変更がある方は、FAX 等にて至急事務局までご連絡ください。

◇年度会費お支払いのお願い

平成 26 年度会費，前年度までの未納会費のお振込みをお願いいたします。

郵便口座 No. : 00130-4-561426

◇学会誌のバックナンバーについて

学会誌「体育・スポーツ政策研究」のバックナンバーを 1 部 2 千円にて配布しております。ご希望の方は、事務局までご連絡ください。

◇学会ホームページの開設について

下記 URL でホームページがご覧いただけます。

<http://www.geocities.jp/spolicy/>

日本体育・スポーツ政策学会 会報第 25 号

発行日：平成 26 年 8 月 2 日

発行人：日本体育・スポーツ政策学会

会長 笠原一也

編集：理事会広報担当 井上洋一

事務局：〒184-8501

東京都小金井市貫井北町 4-1-1

東京学芸大学芸術スポーツ科学系

松田研究室内

Tel&Fax 042-329-7643

Email sportseisaku@gmail.com